

まえがき

本年も無駄安留記隊報告書を出すことができたこととなった。はじめに、無駄安留記隊について説明しておく。鳥取大学地域学部地域文化学科の必修科目である「地域文化調査」において、幕末から明治初頭にかけての因幡の地誌である米逸処著『佳景無駄安留記』をめぐり、そこに書かれた当時の名所旧跡などを現地に出かけながら調査することを目的としたグループが無駄安留記隊である。この隊で昨年度は鳥取市周辺にあたる邑美郡の部分を調査した。本年度はひきつづき『無駄安留記』の上巻および補遺にある岩井郡の部分について調査を行った。ここに掲載したのは学生によるこの調査の成果である。また本冊子には付録として、日本海新聞に掲載された「鳥取の隠れ名所」を転載するとともに、『無駄安留記』翻字版も邑美郡と岩井郡の部分載せることができた。

因幡国岩井郡とは、現在の鳥取県岩美郡岩美町と鳥取市福部町（旧福部村）にあたる地域である。明治の郡制改革で、鳥取県東部の岩井郡・邑美郡・法美郡が統合され、あたらしく岩美郡がうまれた。そのため岩井郡は消滅してしまったのだが、岩井の名はたとえば岩美町の岩井温泉などに残されている。また岩井郡は古く巨濃郡と呼ばれていたことがあるなど少々ややこしい。無駄安留記の中でも岩井郡ではなく巨濃郡の方が使われているところがいくつかある。

この岩井郡へは、江戸時代には鳥取城下から但馬往来が通っていた。この街道は鳥取の湯所から覚寺、浜坂、湯山などを経由し、鳥取砂丘東端の駟馳山の峠を越えたところで海道と山道との二つに分かれる。海

道の方は現在の国道一七八号線で、山道の方が国道九号線である。江戸時代には鳥取藩の番所が置かれていた浦富へは海道を行くことになる。著者の逸処もこれらの道を行き来したはずで、取りあげられている名所旧跡で往来治いのものは多い。この浦富までが鳥取から約一五キロメートルで、徒歩での旅だとすれば、このあたりまでが日帰り圏だろう。逸処の取材記のようなものは残っていないので、旅の様子がわからないのは残念だが、さらに遠出の時には宿を取ることもあっただろう。

無駄安留記にある岩井郡の名所旧跡は上巻だけで四〇ヶ所近くにのぼる。そのうち絵があるのが二〇ヶ所あまりで、半数以上に絵が添えられている。逸処が描く絵はかなり〈写真〉的だから、対象を前にして描くための時間がある程度はかかっただろう。とすると、日帰るか泊まりかはともかく、かなりの日数をかけて岩井郡のあちこちを訪ねたうえでこの本を書き上がったのでは、と想像できるのである。

一方、われわれの調査の方は、逸処に比べるとわずか三日現地へ出かけたにすぎない。それでも、あとからの文献調査なども含めることで、二四本の報告をすることができた。その中味は本編を見ていただくとして、ここでは無駄安留記に取りあげられていながら、この報告書では扱えなかった岩井郡の名所旧跡を最後にあげておきたい。湯山池、東浜一の山、二の山、岩戸巖石尊、白原越、黒痣阪、黒島、陸上盗賊穴、両股山建巖、蒲生峠、牛峯蔵王権現、岩常万願寺ほかの穴、細川長者屋敷跡、弥勒寺跡、細川蛇もち、銀山、武田又太郎墓などである。

（地域文化学科教員 茨木 透）